

よろしくお願いします New Face



上野 美緒

昨年6月から看護師として勤務しています。毎日一生懸命にリハビリをする患者さんに看護師としてどう関わっていくか日々模索しています。「あなたじゃないと!」と言われるように頑張りたいと思います。



外山 裕子

昨年の6月から勤務しています。患者さんが日々の入院生活を快適に送ることができるように頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。



森元 能里枝

12月から看護助手として勤務しています。不慣れな面がたくさんありますが、一杯頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。



小野 優里

1月から理学療法士として勤務しています。患者さんが早く元気になれるように、お手伝いをさせて頂きたいと思っています。宜しくお願い致します。



医療法人社団 唱和会
明野中央病院
日本医療機能評価機構 認定病院

診療科目 内科・消化器内科・リウマチ科・整形外科・形成外科
リハビリテーション科・麻酔科(森 正和)
病床数 75床 [2F/一般病棟45床(亜急性期病床10床含む)
3F/回復期リハビリテーション病棟30床]

発行日 2013年5月
発行 明野中央病院
回復期リハビリテーション病棟運営委員会
〒870-0161 大分市明野東2丁目7番33号
TEL 097-558-3211 (代表) FAX097-558-3709

URL <http://www.akenohp.jp/>
E-mail akenohp@fat.coara.or.jp

◎回復期リハビリテーション病棟に関するご相談、お問い合わせは**地域医療連携室 佐藤**まで◎

あけのスケッチ

AKENO vol.11 SKETCH

リハビリテーションって?

神経内科医師 宮崎 眞理



そもそもリハビリテーションって何だろうと思ったことはありませんか? 定義によると、「肉体的・精神的な外傷を負った者に訓練を施し、社会復帰を可能ならしめること」とあります。

当院では、回復期のリハビリテーションを行っています。回復期リハビリテーション病棟とは発病して少し落ち着いた後、自宅復帰または社会復帰するために訓練するところです。もちろん、それぞれの病気や重症度によって、目指すゴールは変わりますが、その患者さんにとってのベストを目標にがんばっています。

ところで、リハビリテーションを担当する療法士の職種が、大きく三種類に分かれることを知っていますか? まず病気などによって麻痺になったり筋力が衰えたりしている手足を動かすことによって体を動かす訓練をする理学療法士(PT)、手や指などの細かい動作を道具などを使って洗面や着替え、整容など日常生活がスムーズに行えるように訓練する作業療法士(OT)、食べ物をしっかり噛んでむせずに飲み込むといった訓練や、失語症などのうまく言葉が出にくくなった患者さんの訓練を行う言語聴覚士(ST)です。当院には現在この三種類の療法士がいて、それぞれが連携し協力しながら一人一人の患者さんに合ったリハビリを行っています。加えて看護師が、看護とともに日常生活のお手伝いをしつつ、リハビリにも加わって患者さんのゴールへ向けてのお手伝いをしています。もちろん病気によって各療法士にかかる比重は変わってきます。歩けないのがメインの問題でそれ以外はあまり不自由のない患者さんはPTの比重が大きくなるでしょうし、体はまあまあ動くけれど日常生活動作がうまく行えない患者さんはOTが主体となり、何よりもまずうまく飲み込めない患者さんは、PT、OTも関わ

るものの、STの訓練が主体になってくるといった具合です。一人一人患者さんが違えば、訓練の仕方も違ってきます。そういう意味で同じリハビリテーションは存在しません。一人一人の患者さんが、皆さん満足して家庭へ社会へ復帰していただけるように私たちはチームを組んでリハビリを行っています。もちろんそこには患者さんの希望も入ってきます。家族の方や患者さんの希望なども聞くことも含めて、進行状況などを説明するカンファレンスを行っています。できれば全ての患者さんに、そして家族の方々に満足していただきたい、そういう気持ちで回復期リハビリテーション病棟は今日も療法士や看護師たちの奮闘が続いています。



大分県回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 研修会報告

“回復期リハ病棟の役割と協働の意義を10カ条から学ぼう”

看護師 玉井 朝美



平成25年2月10日、大分市コンパルホールにて大分県回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第6回研修会が開催されました。「回復期リハ病棟の役割と協働の意義を10カ条から学ぼう」と題し遠方より講師の先生方が招かれました。会場は県内の回復期リハ病棟より出席された職員の方々と埋め尽くされました。そんな熱気を帯びた雰囲気の中、各職種による10カ条に基づく講義が始まりました。各専門の立場からのスライドを用いたわかりやすく丁寧な講義が続き、熱心に傾聴する参加者の真摯な姿勢と先生方の熱意で会場は一体化していきました。回復期リハ病棟の看護師として日々患者さんと接する私としては回復期病棟ケア10カ条が強く心に残りました。生活上最も重要な排泄、食事および保清等のADLの自立を図るうえで“入浴は週に2回以上行う”“排泄はなるべくトイレ誘導を行う”等患者さんの人権を尊重したケア10カ条となっており、回復期リハ病棟職員の協力にてケアの質の向上をはかる重要性を改めて考えさせられました。講義終了後は先生方に対する質疑応答の時間が設けられ活発な意見交換がみられました。閉会後はトキハ会館に場所を移し講師の先生方との懇親会が催されました。県外よりお見えになったという事もあり“温泉、観光地”などについて大分県に関する話題で会話が弾んだり、先生の自作の曲のギター演奏があったりと終始和やかな雰囲気が感じられました。今回の研修会を通して回復期リハ病棟におけるチームワークの大切さを痛感しました。私たち一人一人が強い意志と優しい気配りを持ち患者さんのために日々頑張っていきたいと思えます。



回復期リハビリテーション病棟協会 ～第58回全職種研修会～

理学療法士 大嶋 梨保



平成25年2月9日～10日に福岡市で行われた「第58回全職種研修会～回復期リハビリテーション病棟における退院支援～」という研修会に参加しました。ワークショップを2日間にかけて行いましたが、他の回復期リハ病棟の方々と意見を交え退院支援について深く考えることができました。介入当初より、どの職種がどの時期に何の目的でどのように退院支援を行なっていくかが重要であり、そのためには他職種とコミュニケーションを深め、チー

ムアプローチを行なっていくことが重要だということ再認識しました。また退院支援を行うにあたり、患者家族の生活背景などの情報収集を行うこと、家族背景に合わせた配慮が必要であることを学びました。現在当院では回復期リハ病棟を退院した後の様子を把握することができておらず、今後は退院後の生活の様子を把握するためにケアマネジャーとの連絡が取れる状況を作り、地域との連携が図れる取り組みを行なっていきたいと考えています。



回復期リハビリテーション病棟協会 第21回 研究大会 in 金沢

看護師 阿蘇野 泰幸

石川県金沢市にて回復期リハ協会が開催され、当院より3名が参加しました。

学会は7会場に分かれ、それぞれで発表やポスターセッションする形式でした。内容は様々で最先端医療・職員教育・ADLに合わせた効果的な介助方法・疾患に合わせた装具などもあり、回復期リハ病棟に沿った内容ばかりでした。どれも充実した内容で、今後も回復期リハ病棟で働く者として大変勉強になるものでした。当院からは、理学療法士の岡次恵が「人工骨頭置換術後の退院後歩行能力に影響する因子について」というテーマで発表を行いました。

来年の研究大会は名古屋で開催されることが決まっています。来年もまた皆で協力し今回の研究の内容を越えるように頑張りたいと思えます。

